

(19) The Japanese Patent Office (JP)

(11) Utility Model Publication Number: H07-45004(U)

(43) Date of Publication: 12.12.1995

(51) Int. Cl.⁵ A61H 35/00
A47K 7/08
A61M 3/06

(21) Application Number: 5-8176

(22) Date of Filing: 02.03.1993

(71) Applicant: Okamoto Corporation

(71) Applicant: Nakayama Kogyo K.K.

(72) Inventor: Jun-ichi FUJISAKI

(72) Inventor: Miwa OSHITANI

(72) Inventor: Tetsuya OHSHIRO

(74) Attorney: Masana HAYAKAWA

(54) Title of the Device: Portable Bidet

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a portable bidet instantaneously usable with only drawing operation of a washing tube without opening the cover when use while maintaining compact form on carrying.

SOLUTION: Provided a washing tube 7 capable of protruding from and withdrawing into an inserting hole 4 of the lid body 3 covered the opening 2 of the washing case 1. When the washing tube 7 received in the case 1 remaining the tip end portion 8 on the case 1 is drawn out, the valve abutting portion 6 abuts against upper surface 15b of the valve 15 to push down the valve 15, thereby communicating with the washing liquid inflow hole 17 of the valve 15 and the lower surface opening 11 of the tube body 12, and the second catch groove 14 and the catch brim 5 are fit for the washing tube 7 to be withdrawn and fixed in a predetermined length on the case 1.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-45004

(43) 公開日 平成7年(1995)12月12日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 H 35/00		R 7507-4C		
A 4 7 K 7/08				
A 6 1 M 3/06				
			A 6 1 M 7/04	

審査請求 有 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願平5-8178

(22) 出願日 平成5年(1993)3月2日

(71) 出願人 000000550

オカモト株式会社

東京都文京区本郷3丁目27番12号

(71) 出願人 000211514

中山工業株式会社

埼玉県入間郡三芳町竹間沢字新開402番地

(72) 考案者 藤崎 純一

千葉県佐倉市白井台28-10

(72) 考案者 押谷 美和

千葉県市川市下貝塚2-12-8

(72) 考案者 大城 哲也

埼玉県入間郡三芳町竹間沢字新開402番地

中山工業株式会社内

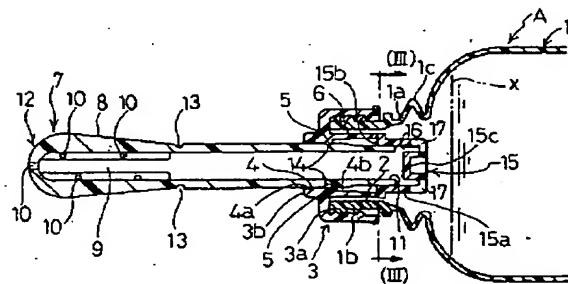
(74) 代理人 弁理士 早川 政名

(54) 【考案の名称】 携帯用ビデ

(57) 【要約】

【目的】 携帯時のコンパクト化を維持しつつ使用時には開蓋することなく洗浄管の引出し作業のみで即座に使用可能な携帯用ビデを提供することである。

【構成】 洗浄液ケース1内の開口部2に被着した蓋体3の挿通口4に洗浄管7を出没可能に備え、先端側8のみをケース1上に残してケース1内に収納されている洗浄管7を引出していけば、弁体15の上面15bに弁体衝止部6が衝止して弁体15が押し下げられ、弁体15の洗浄液流入孔17と管本体12の下面開口11とが連通すると共に、第二係止溝部14と係止鏢部5とが嵌合して洗浄管7は所定長さでケース1上に引出し固定される。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】弾力性を有する洗浄液ケースの開閉口に蓋体を被着し、該蓋体はその上面中心に設けた挿通口を介して洗浄管を洗浄液ケース内から出沒可能に備え、かつ挿通孔内面に係止鍔部あるいは溝部を周設し、かつ蓋体内面の上記挿通口の口縁から弁体衝止部を所望長さで垂設して構成され、上記洗浄管は蓋体の内面に摺接する程度の管径を有し、先端側に内部流路と連通する洗浄液噴出孔を穿設すると共に下面を開口した所望長さの中

10 空管からなる管本体と、側壁下端に内部空間と連通する洗浄液流入孔を設けると共に上記管本体下端の外側面に上下摺動可能に嵌合せしめる弁体とて構成され、上記管本体は洗浄液噴出孔下位の

20 外側面に上記蓋体の係止鍔部あるいは溝部が密着嵌合可能な第一係止溝部あるいは鍔部を周設すると共に、上記弁体嵌合部位上位の外側面に上記係止鍔部あるいは溝部に密着嵌合可能な第二係止溝部あるいは鍔部を周設してあり、上記洗浄管は弁体を管本体の外側面に沿って押上げて洗浄液流入孔と管本体の下面開口とを閉弁させた状態で第一係止溝部あるいは鍔部を蓋体の係止鍔部あるいは溝部に嵌合せしめてその嵌合部分下位を洗浄液ケース内に収納して備え、上記第一係止溝部あるいは鍔部の嵌合を解除すると共に管本体を引出して第二係止溝部あるいは鍔部を蓋体の係止鍔部あるいは溝部に係止した時、上記弁体は蓋体の弁体衝止部にその上面が衝止して押下げられると共に、その洗浄液流入孔を管本体の下面開口と連通せしめて開弁することを特徴とする携帯用ビデ。

*

*【図面の簡単な説明】

【図1】本考案携帯用ビデの一実施例で、開弁状態を示す縦断正面図

【図2】閉弁状態を示す縦断正面図

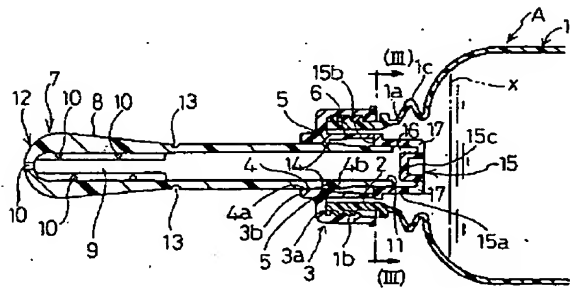
【図3】図1のIII - III線断面図

【図4】分解斜視図

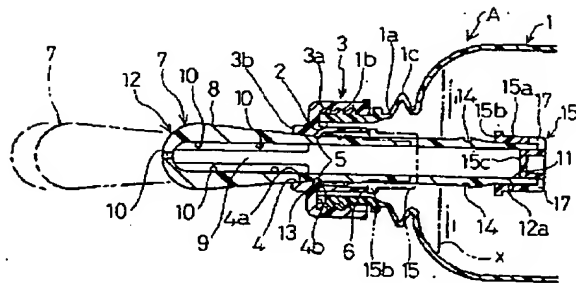
【符号の説明】

1：洗浄液ケース	2：開閉口
3：蓋体	3a：上面
4：挿通口	4a：挿通口内面
4b：口縁	5：係止鍔部
6：弁体衝止部	7：洗浄管
8：先端側	9：内部流路
10：洗浄液噴出孔	11：下面開口
12：管本体	12a：外側面
13：第一係止溝部	14：第二係止溝部
15：弁体壁	15a：側壁
15b：弁体上面	16：内部空間
17：洗浄液流入孔	

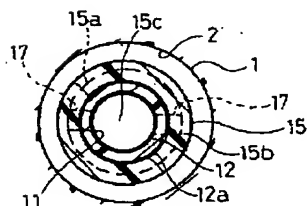
【図1】



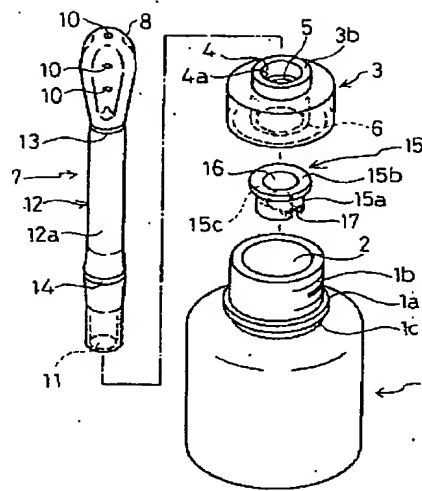
【図2】



【図3】



【図4】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、女性の局所洗浄に用いられる携帯用ビデに関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来携帯用のビデとしては、所望長さの洗浄管がそのままの長さで洗浄液ケースから突出していると大変嵩張り不便であったため、例えば実公昭52-40637号公報記載の如き、携帯時（不使用時）には洗浄管を逆さにして洗浄液容器内に配設せしめると共に容器開口を閉蓋して上記容器のみの大きさとし、使用時には開蓋して洗浄管を取出し、そして該洗浄管を容器開口に取付けて使用するものとすることによって携帯時のコンパクト化を図っていたものであった。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

しかし、上記従来の携帯用ビデは使用時の準備作業として開蓋作業及び洗浄管取付け作業が最低必要であったため、即座に使用するには適していないという不具合があった。

また、使用に際して一旦開蓋するため誤って容器内の洗浄液を零してしまう虞れもあり、使用時に必要量が得られないという不都合をも有していたものであった。

【0004】

本考案は、従来技術の有するこのような問題点に鑑みなされたものであり、その目的とするところは、携帯時のコンパクト化を維持しつつ使用時には開蓋することなく洗浄管の引出し作業のみで即座に使用可能な携帯用ビデを提供することである。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

上記目的を達成するために本考案がなした技術的手段は、弾力性を有する洗浄液ケースの開口部に蓋体を被着し、該蓋体はその上面中心に設けた挿通口を介し

て洗浄管を洗浄液ケース内から出沒可能に備えると共に、挿通孔内面に係止鍔部あるいは溝部を周設し、かつ蓋体内面の上記挿通口の口縁から弁体衝止部を所望長さで垂設して構成され、上記洗浄管は蓋体の内面に摺接する程度の管径を有し、先端側に内部流路と連通する洗浄液噴出孔を穿設すると共に下面を開口した所望長さの中空管からなる管本体と、側壁下端に内部空間と連通する洗浄液流入孔を設けると共に上記管本体下端の外側面に上下摺動可能に嵌合せしめる弁体とで構成され、上記管本体は洗浄液噴出孔下位の外側面に上記蓋体の係止鍔部あるいは溝部が密着嵌合可能な第一係止溝部あるいは鍔部を周設すると共に、上記弁体嵌合部位上位の外側面に上記係止鍔部あるいは溝部に密着嵌合可能な第二係止溝部あるいは鍔部を周設しており、上記洗浄管は弁体を管本体の外側面に沿って押上げて洗浄液流入孔と管本体の下面開口とを閉弁させた状態で第一係止溝部あるいは鍔部を蓋体の係止鍔部あるいは溝部に嵌合せしめてその嵌合部分下位を洗浄液ケース内に収納して備え、上記第一係止溝部あるいは鍔部の嵌合を解除すると共に管本体を引出して第二係止溝部あるいは鍔部を蓋体の係止鍔部あるいは溝部に係止した時、上記弁体は蓋体の弁体衝止部にその上面が衝止して押下げられると共に、その洗浄液流入孔を管本体の下面開口と連通せしめて開弁することである。【0006】

【作用】

上記技術的手段により、不使用時には管本体外側面の第一係止溝部あるいは鍔部に蓋体挿通口の係止鍔部あるいは溝部が密着嵌合して、その嵌合部下位の洗浄管部分が洗浄液ケース内に収納された状態となり、ケース上方に突出している部分は洗浄液噴出孔を穿設してある先端側部分のみとなる。このとき弁体は、管本体下端の外側面に沿って上方一杯に押し上げられ、弁体の洗浄液流入孔と管本体の下面開口とを閉弁している。

【0007】

そして、使用時には突出している管本体を引張り蓋体の係止鍔部あるいは溝部に嵌合している第一係止溝部あるいは鍔部を外し、そのまま所望長さ管本体を引出していくと、弁体の上面が弁体衝止部に衝止されて弁体のみが押下げられるため、弁体の洗浄液流入孔と管本体の下面開口とが連通され、そしてその時点で第

二係止溝部あるいは鍔部が上記蓋体の係止鍔部あるいは溝部に密着嵌合して洗浄管は引出し固定される。即ち、この時点で洗浄液ケース内部と洗浄管内部流路とが連通されて洗浄液の噴出がなせる。

【0008】

【実施例】

以下、本考案の一実施例を図に基づいて説明する。

【0009】

図中Aは、本考案携帯用ビデの一実施例を示し、該携帯用ビデAは洗浄液ケース1、蓋体3及び洗浄管7とで構成されている。

【0010】

洗浄液ケース1は、合成樹脂材あるいはゴム等の弾力性を有するものからなり、図示せるような所望形状に形成され、その上部中央に突設した頸部1aを介して開口部2を設けている。また、図示せるケース1の形状、大きさ等は一例にすぎず何等これに限定されるものではない。

【0011】

上記頸部1aには、その外周面に雄螺子1bを螺設すると共に、上記雄螺子1bより下位部分に蛇腹部分1cを設けている。尚、蛇腹部分1cの範囲あるいは有無については任意であり適宜変更可能である。

【0012】

蓋体3は、上記洗浄液ケース1の開口部2を被着するもので、上記頸部1aの雄螺子1bに螺合する雌螺子3aを内周面に螺設し、そして上面3bの中心に挿通口4を設けると共に、該挿通口4の内面4aに断面ドーム型に突出する係止鍔部5を周設（一体あるいは別体に形成）し、そして上記挿通口4の口縁4b（上面内面側）から挿通口4よりも一回り大径状とした筒状の弁体衝止部6を所望長さで垂設して構成されているものであり、上記挿通口4を介して洗浄管7を洗浄液ケース1内から出沒可能に備えるものとする。また、蓋体3は上記のように螺合して洗浄液ケース1の開口部2に被着されるものに限らず、上記開口部2に所望な接着剤で貼り付けたりあるいは嵌合せしめたりして被着されるもの等であってもよく任意である。

【0013】

洗浄管7は、下面を開口した所望長さの中空管で、その先端側8に内部流路9と連通する洗浄液噴出孔10…を一乃至複数穿設した管本体12と、側壁15aの下端に内部空間16と連通する洗浄液流入孔17…を一乃至複数設け、上記管本体12の下端外側面12aに上下摺動可能に嵌合せしめる弁体15とで構成されている。

【0014】

管本体12は、上記係止鍔部5によって形成される内径よりも大径状に形成して係止鍔部5に沿って摺接させるものとし、そして上記洗浄液噴出孔10の穿設部位よりも下位の外側面12aに、上記係止鍔部5が密着嵌合可能な断面ドーム型に窪む第一係止溝部13を周面にわたって刻設すると共に、上記弁体15の嵌合部位よりも上位の外側面12aに上記第一係止溝部13と同一の第二係止溝部14を刻設している。

尚、上記係止溝部13、14の断面形状は任意であり上記形状に何等限定はされないが、嵌合時の密着度が高い形状が好ましく、また図示せしめてはいないが上記係止溝部13、14と係止鍔部5のいずれか一方あるいは両方にパッキンを設けるものとしてもよく任意である。

【0015】

弁体15は、本実施例にあつては管本体12の外側面12aに摺接する程度の内径を有し上面を開口した短管状で、上面15bを鍔状に延設し、そして内底面を管本体12の内部流路9に嵌合できる程度の径で所望高さ突出せしめた差込部15cを設けると共に、側壁15aの下端に内部空間16と連通する洗浄液流入孔17…を設けてなるもので、管本体12の下端外側面12aを内側面15dに沿って押込み、開口11に差込部15cを嵌合させて閉鎖せしめると共に、洗浄液流入孔17を外側面12aによって閉鎖せしめて備えられる。

【0016】

また、本実施例では管本体12側に係止溝部（第1、第2）を、蓋体3側に係止鍔部5を設けたもので説明したが、これとは逆に管本体12側の上記第1、第2係止溝部を夫々鍔部とすると共に、蓋体3側の係止鍔部を係止溝部としてもよ

く、管本体12が蓋体3の内面所望位置に嵌合できるものであれば適宜変更可能である。

尚、図示例では洗浄液流入孔17の穿設高さに比して差込部15cの突出高さを高くしているが、両者の関係（洗浄液流入孔17の穿設高さと差込部15cの突出高さ）は図示例と反対あるいは同一高さであってもよく任意である（図1参照）。

【0017】

従って、蓋体3の挿通口4に洗浄管7を挿通させると共に、第一係止溝部13に係止鏢部5に嵌合させて洗浄液噴射孔10…を穿設した先端側8のみを蓋体3上に位置させ、そして洗浄液xを貯溜せしめた洗浄液ケース1内に開口部2を介し、蓋体3の内面側に突出する洗浄管7部分を挿入しつつ蓋体3を上記ケース1の頸部1aに螺着すれば、洗浄管7の殆どを洗浄液ケース1内に収納された状態の携帯用ビデAが完成する（図2参照）。

この時、弁体15は管本体12の下端一杯に押し上げ、管本体12の開口11に差込部15cを嵌合させて閉鎖せしめると共に、洗浄液流入孔17を管本体12の外側面12aによって閉鎖せしめて閉弁状態である（図2）。

【0018】

上記構成した携帯用ビデAは、洗浄液ケース1の上方に僅かに洗浄管7の先端側8が突出しているだけで、結果的には洗浄液ケース1のみの大きさと大差ない程度となり携帯時（不使用時）の嵩張りが無い。

【0019】

次に、上記携帯用ビデAの使用の一例について説明すると、洗浄液ケース1の蓋体3上方に突出している管本体12の先端側8を引張り、係止鏢部5に嵌合している第一係止溝部13を外し、そしてそのまま所望長さ管本体12を引出していくと、弁体15の上面15bが弁体衝止部6に衝止されて弁体15のみが押下げられ、弁体15の洗浄液流入孔17…と管本体12の下面開口11とが連通され、そして上記連通時に第二係止溝部14が上記係止鏢部5に密着嵌合されて洗浄管7が引出し固定される（図1参照）。即ち、この時点で洗浄液ケース1内部と洗浄管7の内部流路9とが連通されて洗浄液xの噴出がなせるものであり、使

用にあたっての準備時間は殆ど掛からない。

【0020】

また、本実施例において弁体衝止部6は筒状であるがゆえに安定して弁体15を押下げることができ有用であるがこれに限定されるものではなく、板状あるいは杆状等任意形状でよく、弁体15を押下げ可能な構成であればよい。また、その垂設長さも第二係止溝部14が係止鏝部5に密着嵌合した時点で、洗浄液流入孔17と下面開口11とが連通する程度に弁体15を押下げ可能な長さで垂設されていればよい。さらに弁体15を管本体12下端から完全に押し外す長さを有しているものとしてもよく、洗浄管7の引き出し固定時に洗浄液を流通できるようにすればよく任意であり適宜変更可能である。

【0021】

【考案の効果】

本考案は上記構成を有し、不使用時には管本体外側面の第一係止溝部あるいは鏝部に蓋体挿通口の係止鏝部あるいは溝部が密着嵌合して、その嵌合部下位の洗浄管部分が洗浄液ケース内に収納された状態となり、ケース上方に突出している部分は洗浄液噴出孔を穿設してある部分のみとなるため、携帯時（不使用時）のコンパクト化を維持しつつ、そして使用時には突出している管本体を引張り、蓋体の係止鏝部あるいは溝部に嵌合している第一係止溝部あるいは鏝部を外して所望長さ管本体を引出していくと、弁体の上面が弁体衝止部に衝止されて弁体のみが押下げられ、弁体の洗浄液流入孔と管本体の下面開口とが連通されると共に、その時点で第二係止溝部あるいは鏝部が上記蓋体の係止鏝部あるいは溝部に密着嵌合して洗浄管は引出し固定されるものであるため、使用時には従来のように開蓋作業及び洗浄管取りだし、取付け作業がまったく不要となり、即座に使用可能な大変使用勝手に優れた携帯用ビデの提供が図れる。